



Map 出雲大社は、縁結びの神として知られる大國主大神を祀る神社。本殿は日本でもっとも古い神社建築様式である大社造りで国宝です。「日記」によれば、国譲りに際して、高天原から与えられた壮大な宮殿が出雲大社の始まりとされています。平安時代の「口道(くちずさみ)」には「雲太、和、京三」と「出雲大社」が一番大きく、次いで奈良の大仏殿、京都の大極殿という当時の巨大建築物を示す記述があります。平成12年(2000)に、境内で巨大柱が出土し、これを裏付ける発見として注目を集めました。なお、参拝作法は「二礼・四拍手・一礼」です。

平成大遷宮 60年ぶり。今、よみがえりの時

出雲大社御本殿は、約60年に一度の大遷宮に伴う御修造が行われ、檜皮葺の大屋根と、千木・勝勇木を頂く姿を見ることが出来ます。今回の御修造では、千木と勝勇木に「ちゃん塗り」と呼ばれる、エゴマ油や松ヤニ、鉛、石灰などを混ぜた黒色の塗装が施されました。明治の御遷宮の時に施された「ちゃん塗り」が約130年ぶりに甦りました。千木・勝勇木の「黒」と、破風の「緑青色」、約64万枚の真新しい檜皮の「茶」の美しい色彩のコントラストが見事です。御修造が整う平成25年5月10日には、御祭神である大國主大神が、清らかに甦った御本殿に御遷りになる「本殿遷座祭」が執り行われます。



A2 Map 出雲大社の西にある海岸で、国譲り、国引きの神話で知られる浜。海岸の南には、国引きのとき、鳥を結ぶ綱になったとされる藪の長浜(長浜海岸)が続いています。また、この浜は旧暦10月の神在月に、全国の八百万の神々をお迎えする浜でもあります。

A3~D3 Map 旧暦10月10日夜、国譲り神話の舞台である稲佐の浜において、全国各地より参集される神々をお迎えする神迎神事の後、竜蛇さまを先導に八百万の神々が大國主大神の待たれる出雲大社へと向かわれる道です。

A2 Map 出雲大社の摂社で、主祭神はササノオ神と八百万神(やおよろずのかみ)。毎年旧暦10月の神在祭の期間中、全国の神々が神籬(かむはかり=会議)をされる社です。

出雲大社モデルコース

- 4つの鳥居をめぐる参拝コース** (徒歩約25分)
大社ご縁広場 → 宇迦橋の大鳥居 → 神門通り → 勢溜の大鳥居 → 下り参道 → 松の参道の鳥居 → 銅の鳥居 → 本殿
- 古代出雲歴史博物館と社家通りをめぐるコース** (徒歩約35分)
古代出雲歴史博物館 → 勢溜 → 出雲大社 → 北島国造館 → 命主社 → 真名井の清水 → 真名井の若宮さま(さがし物の神様) → 勢溜
- 神迎の道をたどるまち歩きコース** (徒歩約80分)
出雲大社 → 勢溜 → 神迎の道 → 口紅地蔵 → 蔵の美術館 → おかん坂(阿野神社) → 永徳寺坂下の大燈籠 → 稲佐の浜 → 屏風岩 → 上の宮 → 奉納山公園 → 出雲大社
- 出雲阿国を偲ぶまち歩きコース** (徒歩約40分)
出雲大社 → 千家国造館 → 阿国の道 → 連歌庵 → 出雲阿国終焉地碑 → 於国塔(奉納山) → 安養寺 → 出雲阿国の墓 → 出雲大社
- ぶらり大社まち歩きコース** (徒歩約40分)
出雲大社 → 千家国造館 → 御宮通り → 四ツ角 → 神迎の道 → 勢溜 → 神門通り → 一畑電車出雲大社前駅 → 旧大社駅

このマークを探せ!!
この上に乗って北の方角を眺めると、一の鳥居と二の鳥居が一直線上に撮れます!

「四つの鳥居」をくぐった参拝は、こちらの駐車場が便利です。

旧大社駅
明治45年(1912)の開業から平成2年(1990)のJR大社線の廃止までの、出雲大社参拝の玄関口。全国でも珍しい意匠的に優れた格調ある木造建築で、大正ロマンを感じるノスタルジックな駅舎とホームは大正13年(1924)の改築当時のまま残されています。「東京駅」「門司港駅」とともに国の重要文化財に指定されています。

まち歩き時間の目安

稲佐の浜	21分	3分
蔵の美術館(手鏡記念館)	11分	5分
神門通り	10分	5分
一畑電車 出雲大社前駅		3分
大鳥居		3分
吉兆館		4分
勢溜		8分
旧大社駅		

観光案内

- 道の駅
- 駐車場
- 車いす専用駐車場
- トイレ
- トイレ・多目的トイレ
- 手荷物預り所・コインロッカー
- コンビニエンスストア
- 授乳室
- レンタサイクル
- バス停
- タクシー乗場

歴史を体験

B1 Map 出雲大社の荒垣の東を流れる吉野川に架かる橋を渡ると、北島国造館入口に「北島国造家四脚門」があります。この門の組物中備には「二重亀甲に剣花菱」の家紋を浮き彫りした裏葺が使われており、欄間には竜、背面には鯉が彫られ、桃山風の彫刻の面影を残しています。寛文4年(1664)の屋敷替の際、本殿の後方であった北島国造家屋敷、四脚門を境内拡張のため、現在の地に移築されたもので、四脚門は出雲大社関係の建築物の中では最も古いのです。

B2 Map 出雲大社関係の展示はもちろん、荒神谷遺跡から出土した358本の銅剣(国宝)や加茂岩倉遺跡から出土した銅鐻(国宝)などの青銅器、石見銀山・たたら製鉄・風土記神話など、島根県全域に渡る歴史と文化を紹介する博物館です。

C3 Map 旧家手鏡家の記念館で、代々の当主によって集められた茶道、華道等のさまざまな分野の美術工芸品が展示されています。江戸時代に建てられた米蔵、酒蔵をそのまま生かした風格のある建物です。

おすすめスポット

E5 Map 宇迦橋の大鳥居
宇迦橋の北詰にそびえ立つ大鳥居は、大正4年(1915)神門通りの松280本とともに、九州小倉の歌神家小林徳一郎氏により寄進されました。高さは、出雲大社本殿より1メートル低い23メートル、中央部の顔面は豊6畳敷もあります。この鳥居が「一の鳥居」となります。

B4 Map 緑結び スポット
ステンドグラスの光を二人一緒に浴びると結ばれる!?
映画「RAILWAYS」の舞台となった一畑電車の「出雲大社前駅」。そのレトロな駅舎は、昭和5年(1930)に建てられました。白いドーム天井と赤・青・黄・緑のステンドグラスがめだめだ西洋風建築は、国の登録文化財です。この駅舎の中で、「ステンドグラス」からふりそそぐ光を二人で一緒に浴びると「結ばれる」といわれています。駅舎にはカフェがあり、ホームでは日本最古級の車両「デハニ50形」を展示しています。

D3~E5 Map 神門通りと勢溜
「神門通り」は明治45年(1912)に大社駅が開業し、出雲大社への参詣道として建設されました。大正4年(1915)には、大鳥居と280本の松並木が小林徳一郎氏により寄進され、参詣道としての形態が整い、千家尊福公により命名されました。この神門通りを上りると、木製の鳥居が迎えてくれます。この鳥居が二の鳥居となります。ここには以前大きな芝居小屋があり、大勢の人が集まっていたことから、人の勢いが溜まる所ということで「勢溜」という名前がつけました。

C3 Map 緑結び スポット
口紅地蔵
江戸時代の終わりごろ、信心深く、いつも松林寺にお参りしていた加代という芸者があり、お地蔵様の唇に口紅を塗って「お客が付きまうよ」とお願いしたところ、すぐにお座敷がかりました。次の日も口紅を塗ってお願いするとお客が付き、だんだん実入りがよくなってきたことから、他の芸者も口紅を塗って願ひ事をするようになり、このお地蔵様はいつしか「口紅地蔵」と呼ばれるようになりました。今でも、ご縁を願う人が訪れ、口紅地蔵の口には紅が絶えません。

D3~E4 Map 石畳のヒミツ
神門通りは、60年に一度の「平成大遷宮」を機に、歩いて楽しい石畳の道へ変わりました。その石畳の裏には、多くの地元の人や観光客の「願ひ事」、記念の「メッセージ」が書かれています。また、勢溜の交差点は出雲から「日本初」の弓なり形状の石畳の横断歩道です。